



生保内川癒し de 交流が行われました

参加者は昨年度の倍で、盛大に行われました

8月31日（日）NPO 法人「生保内川癒しの溪流・里・まちネット」主催により、仙北市田沢湖地区で「生保内川癒し de 交流」が開催されました。同イベントは、平成17年から毎年8～9月頃に行われ、この地域を流れる清流・生保内川の水辺で地域の高齢者や子どもたち、そして若いお父さん、お母さんなど3世代を超えた「世代間交流」を行ってきて、今回で4回目の開催となりました。

当日はあいにくの悪天候により、当初予定していた生保内川大暗渠砂防えん堤周辺ではなく、仙北市総合開発センターに会場を移しましたが、参加者は、約130人と昨年度の倍近い人数で盛大に行われました。

交流会の最初に、田沢湖の伝説である「辰子姫の龍伝説」と密接に関連した「八郎太郎」の民話を地元の方が語り、初めて聞く子供も多く、真剣に聞いていました。

会場の特設プールでは、放された「イワナのつかみどり」が行われ、小さな子供もたくさん参加しました。生きた魚をさわったことのない子供も多かったのですが、ずぶ濡れになってイワナを追いかけ夢中になって楽しんでいました。



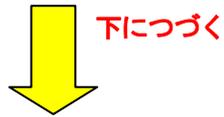
☆ 特設プールでのイワナのつかみどり ☆
(こんな大きな魚がとれたよ)



☆ 地元有志による民謡「生保内節」 ☆
(全国大会 Jr チャンピオンの歌声)

また、地元生保内を代表する民謡「正調生保内節」を地元有志が披露し、最後にビンゴゲーム大会が行われ、参加者の紹介などをして閉会しました。

子供はもちろん、その親、年配の方、介護老人保険施設でくらしている方など、普段あまり交流のない方々が、昭和35年に生保内川で土砂災害、水害があった事や、昔は川で泳いだ事など、生保内川の事を語り会いました。このようなイベントを通じて、水害、土砂災害があったことを知り、また日常の地域のコミュニティが活発になり、共に楽しみ、考え、実践することの積み重ねが、災害時の『自助共助』による『減災』に繋がると、改めて感じさせられました。



参加者からは今回は自然にふれることは少なかったが、来年も参加して「今度は川で楽しみたい」との声もありました。子供からは「もっと魚をつかみたい。本当の川にはどんな魚がいるのかな？」など。また年配の方からは「いろんな年代の人が来ていてたまげた。生保内にもこんなに子供がいるんだべな～」などの感想がありました。



☆ 昭和35年水害の経験者の方々 ☆



☆ 車いすの方も参加 ☆

今後の予定として、同法人は10月19日（日）に仙北市民会館を会場として「生保内川癒しの溪流市民の集い」（仮称）をテーマにした「昭和35年8月に襲った水害犠牲者への鎮魂の思い」や、「今後の生保内川の活用方法」などを紹介する「市民シンポジウム」や昨年度発表した癒しの溪流のテーマソングや童謡を中心とした「癒しコンサート」が行われる予定です。ぜひたくさんの方々参加してください。